



研究部会報告

●評価のOR●

・第22回

日時：2月22日（土） 13:30~15:00

出席者：15名

場所：工学院大学新宿校舎 8階 0865教室
(84名収容)

テーマと講師：今回は学生の発表会でした。

(1)「FDH (Free Disposal Hull) を用いたDEAの展開」
佐藤秀一（慶応義塾大学）

生産可能集合として実在の活動の自由処分性のみを考慮する方法とその場合の順序付け、規模の収穫の測定法が報告され、他のDEAモデルへの適用の可能性、効率的DMU増加の問題、入力代替性などが議論された。

(2)「D効率的DMUの順位付け法の提案—各DMUが生産可能集合を変化させる量の変化による—」

清野敦史（東京理科大学）

分析対象としたDMUが存在する場合と存在しない場合との生産可能集合の体積の変化量によってD効率的なDMUを順序付ける方法が報告され、Andersen-Petersenの方法との比較や体積の計算方法、基準化の意味などが議論された。

●離散系シミュレーション●

・第1回

日時：4月18日（金） 17:00~19:00

出席者：22名

場所：早稲田大学理工学部51号館3階第二会議室

テーマと講師：

(1)「システムライフサイクルを考慮した生産システムシミュレータ」

福田 好朗（法政大学・工学部）

生産システムのライフサイクルを考慮したシミュレータを、オブジェクト指向プログラミングによって開発した。このシミュレーションでは、オーダ、WSS（工作機械）、AGV、治具、作業員などの生産システム構成要素を、それぞれオブジェクトとみなしているの

で、構成要素すべてに対応するオブジェクトの詳細をいったん定めてしまえば、構成要素の一部を変更した場合のシミュレーションも、対応するオブジェクトだけを変更することによって簡単に実現できる。発表ではシミュレータのデモも行われた。

(2)「WSC'96報告」

錦戸 和久（構造計画研究所・数理技術部）

毎年12月10日前後に米国国内で開かれるWSC (Winter Simulation Conference)は、離散系シミュレーションに関する国際的集会である。昨年12月8日から11日にかけてカリフォルニア州コロナード市で開催されたWSC'96の内容が報告された。今回の研究・事例における応用例の特徴として次の2つが挙げられる：1)半導体産業への応用例が8例と多いこと；2)その他の応用例に関して、生産、ロジスティックス、計算機システムのような従来からの適用分野とは異なった、医療、通信ネットワーク構築・運用、サービス業（レストラン業など）、環境・エネルギー産業のような分野に応用例が増えてきている。

●高度情報化社会における交通・流通●

・第24回

日時：4月18日（金） 18:00~20:00

出席者：6名

場所：東洋経済新報社ビル（日本橋）

テーマと講師：「21世紀の環境変化に対応した物流」
上田 亀之助（上田イノベーション研究所）

21世紀に予想される天然資源の枯渇、環境問題などについての解説と対応策について紹介があった。特に情報ネットワークの整備と活用が無駄の少ない物流システム構築の鍵となる。

・第25回

日時：5月16日（金） 18:00~20:00

出席者：8名

場所：東洋経済新報社ビル（日本橋）

テーマと講師：「新幹線のぞみ号の開発」

森村 勉（東海旅客鉄道株式会社）

新幹線のぞみ号の開発は、東京・新大阪間を2時間30分で結ぶことと現定員維持と環境問題の悪化防止をコンセプトに進められた。さらに、従来からの新幹線の安全・安定輸送の確保は当然であり、これらの達成には、過去100年以上の在来線における経験の蓄積によるトータルのシステム技術が不可欠であった。

●ファジィ動的計画法●

日時：4月21日（月） 18：00～20：00

出席者：7名

場所：EDCビル会議室

テーマと講師：「予測理論の動向」

小田中敏男

1940年代、Wiener, Kolomogorov はランダム信号の推定問題として、入力波の自己相関関数および入力波と予測波の相互相関関係に関する Wiener-Hopf の積分方程式を導いた。この積分方程式の離散的接近は線形方程式の系で解く問題に導かれるが、過去のデータをどの程度使用するかを決定することは重要な実際的问题である。本研究では動的計画法の手法がこの予測理論の多くの問題を取り扱えることを示した。

●イノベーション●

・第13回

日時：5月10日（土） 14：00～17：00

出席者：8名

場所：中央区立八丁堀区民館

テーマと講師：「国家資格の社会保険労務士と社内報」

小川耕一（社会保険労務士）

社会保険労務士という国家資格は昭和43年に制定され、次第に定着してきました。そして、その定型的な業務に伴い次第にコンサルタント的な業務についての相談も受けるようになり、その一環として社内報を発行して社員相互間の意志疎通を計ることも起こってきました。

会合記録

5月6日（火）機関誌編集委員会	11名
5月12日（月）庶務幹事会	5名
5月14日（水）研究普及委員会	12名
5月22日（木）理事会	14名

第1回理事会議題（9-5-22）

平成8年度評議員会議事録の件
平成8年度第7回理事会議事録の件
平成9年度通常総会議事録の件
入退会承認の件
平成9年度委員会委員・幹事委嘱の件
平成9年度春季研究発表会終了報告及び決算報告の件
第37回シンポジウム終了報告及び決算報告の件
平成9年度秋季研究会発表会予算案の件
平成10年度春季及び秋季研究発表会の件
各委員会報告
その他

●平成9年度会費納入のお願い(事務局)

平成9年度の会費請求書をお送りいたしましたので、お早めにご送金くださるようお願いいたします。なお、8年度以前の会費を未納の方は合わせてお支払いくださるよう重ねてお願いいたします。

〔預金口座振替ご利用の方へ〕

平成9年度から預金口座振替をご希望の正会員の方は、学会事務局までTEL, FAX, 郵便にてご連絡ください。折り返し預金口座振替依頼書をお送りいたします。

●預金口座振替をご利用の方へ(お願い)

従来、振替手数料として、学会費に206円を加算させて頂いておりましたが、ご案内のように4月から消費税が5%に引き上げられました。これに伴い、振替手数料も210円に変更となります。何卒事情ご賢察の上、ご了承賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会